



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

---

CITATION:

通信. 天界 1925, 5(57): 376-402

ISSUE DATE:

1925-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160302>

RIGHT:

右は天文同好會員で奈良女高師教授の著、系統的に書いてある好い本である。

○理學士織田茂著

(二八) 彗星

一冊

三・八〇<sup>円</sup>

古今書院

(二九) 宇宙研究新天文學概論一冊

一・五〇

同

右は天文同好會員で、東大天文臺技師の著である。(二八)は専門家の參考となり(二九)は新天文學の大意が述べてある。(二七)と(二九)とを併せて了解したら一角の素人天文家になれる。

○古賀和吉著

(三〇) 古賀恒星圖

一枚

一・五〇<sup>円</sup>

(目下)

天文同好會

(三一) 簡易星圖

一枚

〇・一〇

同

右は天文同好會九州大牟田支部幹事の著である。(三〇)は一六等星、星雲、星團、新星合計四千三百七十三個を記載してあつて、邦文中の詳細なもの、(三一)は一等星から四等星迄を掲載してあるもので、中等學校の教授に用ひ、家庭用としてよい。

○西岡芳涯著

(三二) 月球圖

一枚

〇・一五<sup>円</sup>

大連市大阪屋號

(同好會取次ぎ)  
右は天文同好會員の著で、邦文唯一の月球圖、裏面に月に關する説明がある。美術的に出來て居るから床の飾りにもなる

同氏の天文數歌第一、二、三輯とも再讀、三讀すべきものである。

○天文同好會編

(三三) 流星觀測用星圖

十三枚一組

〇・六五<sup>円</sup>

天文同好會

(三四) 雜誌「天界」

一部

〇・三五

同

右は本邦唯一の流星觀測用星圖十三枚で、内地から見える天が全部揃ふて居る。本邦に於て天文専門の雜誌は我が會の「天界」に日本天文學會の「天文月報」に丈けで、内容の充實せるは實に我が「天界」である。英文「ブレテン」が天文同好會から出版されて、世界の有名な天文臺のブレテンと交換されてゐる。(續く)

## お断り

天界の九月號に雜念雜話といふ記事が出てゐますが、恐らく大多數の讀者諸君には、この記事は混線の場合によその電話をきいてゐる様な感じを與へたこと、察します。實のところあれは天界の爲に書いたのではなくて、去年の秋、緯度觀測所二十五週年紀念の爲にいたしました通俗講演の一部分を、當地の雜誌『郷調』の爲に書き下したものでございます。即、當水澤に關係ある人々ばかりの興味を思つて書いたものなのです。その雜誌が偶然山本先生のお手に入りしましたさうで、はからずもあの拙文を天界に轉載して戴くことになつたのでした、記事の内容が同好會の方々の胸にヒツタリと來なかつた理由、書くの如くでございます。

陸中 水澤 川 崎 俊 一

●北海道沼貝に隕石落下 沼貝町では九月四日午後四時半頃突如中天に轟々たる尾音を引き西方より東に向け一大音響があつたので人々は何事ならんぞ戸外に飛出したが間もなく字光珠内田中善藏方より百間程離れた畑地の燕麥稈を積重ねたる上に落下したものである。燕麥稈の積重ねより五百間を離るゝ個所に居た同人の伴勝外一名が駈付け拾ひ見るに黒色を呈せる厚サ一寸三角形の石塊であつたが附近の者は隕石であると言つてゐる。(北海タイムス九月六日)——札幌の米田勝彦氏報

●天王星が見える。

今年は魚座に居り、此頃と星の附近を逆行して居る。衝が九月十七日で、その頃には充分好い眼であれば見えるだらう。場所は解り



易い所である。有名なベガスの四邊形の南に當つて、圖の様に、魚座の諸星が橢圓形に美しくならんでゐる。その附近、 $\theta$ と入さ延長した所に $\alpha$ 星がある。此所では $\alpha$ 星の二

星が二つ相當、光つてなり、南の $\alpha$ 星と小さい長方形を作つてゐるから間違はない。その二星を飛石の様に傳つて  $\alpha$ 星と $\beta$ 星とを這はすと、五つ目に天王星に來る。即ち圖では $\times$ の印がそれである大抵の人は見えるだらうが南中するのがおそいので厄介だ。雙眼鏡を使へば立派に見える今年は見易い所に居るのだから皆一度自分の目を試みられ度い。位置は一月の間には大した變化はない。(日は天王星の符號) (日本のハーシエル)

通信

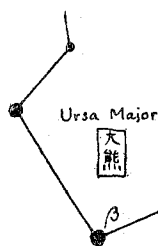
本月(六月)十五日午後九時頃、中川氏の telescope にてオルキス彗星らしいものを見ました。位置は圖のAであります翌日此の位置にはもはや見えませんでした。

木星や土星は毎日中川氏の望遠鏡でのぞかれます。アンタレスがスコルピオ星座の中に赤々

と輝やき、蛇遣ひが中天にかゝる夏の景になりました。北海の空にも星は亂れ咲く。

北海道支部一會員

星 極 北



## 問答欄

### 注意

原稿は總て二十字づめの原稿用紙に願ひます(編輯部)

### 質問の部

(一六) ハリー彗星は一九一〇年に第二十九回目の近日點通過をした事が諸々の本に出ています。が第一回の出現は西暦何年頃ですか。又各回の近日點通過の年月日をお教へ下さいませ、尙各回の出現に際しての最初の発見者と発見月日を御書そへ下さいませれば有難く感謝する次第であります。(T.A.)

(一七) 天界七號に小惑星の二十個程の表が又理科年表にも 十個程の軌道要素が出ていますがもつと澤山の表のはいつた本は有りませんでしょうか。歐文でもよろしいのです。が、有りましたれば書名をお聞かせ下さいませ。又大正十三年末までに発見された小惑星は幾等有りますかお知らせ下さい。(T.A.)

(一八) 彗星の呼名は、其の発見者の名を冠するにあらずして、軌道要素算出者の名を冠すると云ふ者あり。果して然るや否や。

### 解答の部

(一) 若し衝の前後であり、且つ空氣も非常に好く、其の上南中時であれば、手製の一時四十倍で、輪を認める事は出来ぬが、土星

の兩側に附屬物があるのを見る事が出来る。丁度ガレリオが初めて見た時の様な格構(天(界 No. 137 参照))に見える目の好い人は器械が少くとも失望せなくともよい。一度空氣の好い機を捕らへ、試みて御覽なさい。

(日本のハーシエル)

(五) 太陽は眞直に運動してゐる。此の事實はハーシエルによつて発見された。彼は當時固有運動の知れてゐる數個の星を檢査して見ると、各個の間に規則立つた關係が有るのを見付けた。それは總べての星が地球上或點を中心として四方に出發し、反對の點に集合する様に見える事である。これを、總べての星が太陽を中心として、同方向に運動すること説明するのは餘り太陽中心に偏した見方で、却つて太陽が或方向に向つて運動すると思見た方が至當である。かうして彼は或る點即ち太陽向點を  $\alpha = 220^\circ$ 、 $\delta = 20^\circ$  即ち、ヘルクレス座入星の近傍と決定した。最近では分光器を用ひ、多くの星の視線速度を測定し、 $\alpha = 200^\circ$ 、 $\delta = 15^\circ$  太陽の運動する速度即  $\alpha = 10^\circ$ 、 $\delta = 5^\circ$  を得てゐる。所が、向點決定に用ひた星の固有運動は、太陽運動の反映であり、且つ星自身運動してゐても、その方向は、互に關係無く、多くの星を取れば、消滅し、太陽運動の反映のみ残るだらうと考へたのであるが、ハーシエル以後多くの、計算によるその決定方法、及材料の差により、向點の値が非常に違つて来る。これは、多くの星が無關係な方向に動いてゐる。この假説が怪しい

となり、遂にカプタインの二星流発見となつたのである。(日本のハーシエル)

(七) 望遠鏡に天才的の智識と經驗とを有せらるゝ中村要氏は反射望遠鏡に關する著述をせられ殆んど完成に近づいて居るそうですから遠からず出版せられ發行となるでせうから是れをお求めになれば宜敷いであらう斯から専門的の書物は日本では勿論外國にも無いさうであります(京都天文臺 大日本帝國の誇りであります。(大坪生))

(八) 短週期變光星を分つて(1) アルゴール種、(2) 琴座 $\beta$ 星種、(3) セフェウス座 $\delta$ 星種、(4) 雙子座 $\kappa$ 星種、(5) 其他の短週期變光星等とする。所がアルゴール種と琴座 $\beta$ 星種とは共に變光星であり、スペクトルもアルゴール種はA、琴座 $\beta$ 星は初期のものであり、アルゴール種の或ものは殆んど琴座 $\beta$ 星に等しき變光曲線を示す等、類似の點多く、其實質は恐らく同一であらうと云はれてゐる。これが天文曆表中、琴座 $\beta$ 星やヘルクレス座 $\kappa$ 星等の琴座 $\beta$ 星種をアルゴール種と同一の欄に掲げられた理由だらう。尙又、同じ様にセフェウス座 $\delta$ 星種と雙子座 $\kappa$ 星種の區別は無用と考へられ、雙子座 $\kappa$ 星が「セフェウス式變光星」の中に錄されてゐることも注意ありたい。

此の變光星の區別については、戸直藏氏「天文學」下巻に詳細論じてあり、アルゴール種と琴座 $\beta$ 星種、セフェウス座 $\delta$ 星種と雙子座 $\kappa$ 星種等の區別の必要如何は同書P. 136, P. 143, 等二言及してゐる。(Pleides)

## 同好會報

### ○大阪に臨時總會

わが天文同好會が

創立以來滿五年を経たことを紀念するため、又、會が今日當面の重要な諸問題を解決するため、既報の如く、来る十月二十四、二十五兩日大阪に於いて臨時總會を開く。

總會は今まで常に本部の所在地である京都に開いてゐたが、今度は思ひきつて大阪に開くことにした。之れは全く新しい試みであるが、同好會は會員總てのものであり、必ずしも京都に執着するを要しない。今後、會のため、又、學術普及のためであれば、大阪と言はず、神戸と言はず、何所にでも、ざくざく出かけて行つて總會を開くことになるであらう。しかし、さにかく、今回の大阪總會については、あらかじめ相談を持ちかけて見た大阪支部の會員諸氏の多大な厚意と盡力によることである。感謝にたへない。

同好會の過去五年間は可なり多事多難であつた。それだけ、豫期した通りの成績は擧げてゐない。「天界」も立派なものとなり、勿論會員の數も増し、分布も廣くなり知識も普及した。國內に望遠鏡などの數も増し、新聞や雜誌は言ふに及ばず、一般の人々が天文を口にすることも頻繁になつた。五年前には此うした社會では無かつたことを思ふと、最近の此の天文熱に我が同好會が貢獻したことは少

なくないと言つて好からう。しかし、同好會そのものを直視して見ると、やはり、昔のまゝ、財政不如意で手も足も出ない。「天界」は遅れ勝ちであり、會費は集まりにくい。會員は亦一ヶ所のみ集中する傾向がある。社會には異常な天文智慾があるにかゝらず、好い書物は現はれず、又、民間天文臺も全國で五指を屈するに足りない。わが同好會が創立滿五年を経た今喜ばしい事件は無く、むしろ大に反省警戒すべき材料が會を圍んでゐる。こんごの大阪總會は此の難關を切りぬけて、將來の大發展を計畫する機會でなければならぬ。

今回の總會に、本會と縁故淺からぬ大阪毎日新聞社の後援が得られるのは有難い。それで、巻頭の會告にある通り、二十四日には花々しく大船社樓上で講演會を開き、次の二十五日には船場校に移つて、研究、協議、宣傳の三方面に展開する筈である。

中にも、會として最も大切なのは二十五日午後の協議會である。協議の主題は二つ、

(一)同好會の發展計畫

(二)同好會天文臺の建設計畫

である。同好會の緊急問題は財政窮乏を如何にして救ふにある。之れには

(イ)、會費を増額すること、  
(ロ)、會員を増募すること、  
が最も考へ易い。單に「天界」の現狀を見ても、僅に五十錢以上の價に相當するものなのであ

るから、今の毎月會費三十錢を引き上げることに不賛成者は少なからうと思はれるが、具體案としては、

(甲)、今すぐに會費を毎月五十錢に上げる事しかし之れと同時に會員を二千名位に増さなければ會は、やはり、危ない。

(乙)、會費を毎月一圓とし、會員數を定員一千名に限る事、その代りに觀測部を廢止して、アレンスな一般會員に無代配布する事、——但し之れは可なり會の設立趣旨をさげ離れたものになる。

(丙)、會費は現狀維持、但し會員を五千名ぐらゐに増す事、

(丁)、會費は現狀維持、但し、「天界」を市場に賣り出す事、——之れは「天界」の編輯法を墮落せしめる恐れがある。

其の他いろいろある。協議會の席上で充分研究が行はれることを望む。

同好會天文臺の設立も大問題である。主意は前號にも書いた。既に今日までに寄附金の申し込みなどがあるのは喜ばしい。設立個所についても、岡山、大阪、甲南の諸所で既に研究が始まつてゐる。尙他にも好い候補地があるかも知れない。之れも協議會で大に論議して貰ひたい。——そして成るべく來年の火星の接近期には間に合はせたい。望遠鏡は今既に印度洋上にある。

●注意 遠地からの來會者のため、密利で安値な旅館が準備してある。希望者は大阪支部へ問合されたい。